

R3年8月20日

「8月6日」

8月6日、通学途中でも「15分になるわ。」と誰かが自然と言い、立ち止まって黙祷したものでした。8月6日8時15分にサイレンが鳴る、広島では当たり前のことでした。

私は広島で生まれ、広島で育ち、原爆というものがすごく身近でした。祖父の親族はそのほとんどが原爆で亡くなっています。村単位で建物疎開(市街地で、空襲により火災が周辺に広がるのを防ぐために、あらかじめ建物を取り壊して、防火地帯を作ること。中学生や近隣の地域の住民が動員された。)に行き、市内に出動した約200名が亡くなったと聞いています。墓地に行くと、周囲の墓を含めそのほとんどの没年月日が昭和20年8月6日になっています。そして、どのお墓にも遺骨はありません。祖父は終戦後に中国戦線から帰り、市内に出て遺骨や遺品を探したそうです。結局、何一つ見つからず、何処で亡くなったかも分からなかったと言っていました。ただ、産業奨励会館(現:原爆ドーム)に勤めていた親族に関しては、恐らくそこで亡くなったのだろうとだけ言っていました。結局、みんな広島に眠っているのです。平和公園に行き、慰霊碑に参拝する。それが、墓参りです。

夏休みの宿題で被爆者である祖母に話を聞いたことがありました。祖母が被爆者であることは知っていましたが、一度も話を聞いたことはなかったのも、それが初めて聞く原爆の話でした。話を聞かせて欲しいと頼んだとき、祖母は目を見開いてこちらをじっと見つめ、そして黙ってしまいました。しばらくして、どこか遠くを見るように、次のようなことを話してくれました。学校で被爆し、強烈な閃光と音の後、気が付いた時には校舎の下敷きになっていた。学校が比治山の影にあったので熱線で死なずにすんだ。生きることが出来た。瓦礫の中から救出された後、トラックに乗せられて爆心地周辺を抜け廿日市に避難した(原爆の被害地域を西の端から東の端まで全て見たことになる)。市内の様子はどうだったのかと聞くと、淡々と話していたこれまでの様子とは変わり、沈黙し、泣き始め、泣き続け、「お化け…お化けよ」とだけ答え、何も話してくれなくなりました。祖母の様子にショックを受け、何か自分がまずいことを言ってしまったのでは、傷つけてしまったのでは、そんな気持ちになりました。それ以来一度も原爆の話を書くことはなく、祖母は他界してしまいました。

8月6日、日南ではサイレンが鳴りません。当たり前のことではありますが、広島と日南での意識の差を感じました。そういう私も、当事者である祖父母から見れば、戦争や原爆のことについて何も理解出来ていないのでしょう。社会の中、そして自分の中で過去の出来事として風化していつているのだと気付かされます。平和な社会で育ち、世界で起きていることや過去の出来事が別世界のことのよう to 思え、根拠もなく平和が続く気がしてしまう。だからこそ、8月の6日、9日、15日、まったく別の日でもいい、どこかで一度立ち止まり、世界の恒久平和について考える必要があるのだと思います。

【週行事予定】

月	日	曜	行事予定	FT	課外	備考
8月 ／ 9月	23	月	EX祭特編授業	×	○	7:25 登校
	24	火	〃	×	○	7:25 登校
	25	水	〃	×	○	7:25 登校
	26	木	〃	×	○	7:25 登校
	27	金	〃	×	○	7:25 登校
	28	土	漢字検定			
	29	日				
	30	月	EX祭特編授業	×	×	8:15 登校
	31	火	〃	×	×	8:15 登校
	1	水	体育の部予行	×	×	8:15 登校
	2	木	代休(9/4)			
	3	金	EX祭特編授業	×	×	8:15 登校
	4	土	文化の部リハーサル	×	×	8:15 登校